



TOHOKU
UNIVERSITY

いただいたご質問への回答

オンライン交流会
「進学・就職・経済支援に関すること」

2026年9月13日（日）

東北大学理学部・理学研究科
保護者交流会2026

- ・大学院に進むにあたり、出願などのスケジュールや保護者が認識しておく必要があることがあれば教えてください。（物理）

A

●大学院入試は専攻ごとに日程・選考内容が異なります。参考として、2027年4月入学の博士課程前期(修士)一般選抜では、出願期間は2026年7月6日～10日、物理学専攻の試験は8月18日および20～21日、合格発表は9月4日でした（年度により変更があります）。一般選抜では、専門分野の基礎学力をみる筆記試験と、研究計画・研究能力・研究意欲等を確認する面接を行います。

●保護者の方に認識いただきたい点としては、下記4点が挙げられます。

- ①学部4年の夏に院試がある専攻が多いこと
- ②研究室配属・卒業研究と並行して準備すること
- ③出願・試験内容は本人が最新の募集要項を確認して進める必要があること
- ④進学後の学費・奨学金・生活費も早めに確認しておくこと

・理学部HP(大学院入試方法)：

<https://www.sci.tohoku.ac.jp/juken/graduate-admission.html>

・博士課程後期への学内進学について、研究テーマの調整、選考プロセスや新しい支援制度に関して教えてください。

A

●博士課程後期(博士)の進学試験については、修士論文の最終試験を兼ねて行う場合が多いです。4月入学者の場合、博士課程前期(修士)2年の12月頃に出願、1月下旬から2月上旬に試験実施となります。

●研究テーマの調整については、所属の専攻・分野ごとに異なりますので、ご所属の研究室にお尋ねいただければ幸いです。

●2026年から開始となった本学の新しい博士課程後期(博士)学生向け経済支援制度では、原則としてすべての日本人学生に月額10.6万円以上の研究奨励費を支給するとともに、授業料を全額免除する仕組みとなっております。

詳細については、下記URLを参照してください。

- ・東北大学HP（LEAPプログラム
博士学生への総合的な支援パッケージ）

<https://pgd.tohoku.ac.jp/rpc/LEAP.html>

LEAP
プログラム

・ 最近の博士前期課程もしくは後期課程修了時の就活、就職状況が知りたいです。（物理）

A

●直近の進路実績として、例えば物理学専攻の2025年度は、博士課程前期(修士)修了81名のうち、博士課程後期(博士)への進学34名、民間企業への就職44名、その他3名でした。

博士課程後期(博士)は修了26名のうち、大学・研究機関等のポスドク等4名、民間企業16名、公務員等1名、その他5名です。

博士修了後も、大学・公的研究機関だけでなく、メーカー、半導体、IT等の民間企業に進む学生が多くなっています。

●就職活動の開始時期は、博士課程前期(修士)では1年生の6月頃、博士課程後期(博士)では2年生の夏頃が一つの目安です（業界・職種により前後します）。

●最新の進路実績・就活の流れは以下もご参照ください。

- ・理学部物理学科HP(大学院受験生の方へ)

<https://www.phys.tohoku.ac.jp/graduate-school/>

- ・キャリア支援室HP(就活ガイド)

<https://www.sci.tohoku.ac.jp/career/faq.html>



進学・就職ハンドブックは
こちらをご覧ください！



・就職希望先の情報は、みなさんいつ頃から、どこで情報を得ているのですか。希望する企業のインターンシップには各自申し込むのか、また全員参加するものなのでしょうか。学業と就活を両立できるのか、どんなサポートをしていただけるのか教えてください。

A

●就職先の候補は、大学・理学研究科の就職支援、学科・専攻に届く求人、企業・業界説明会、インターンシップ、大学のキャリア支援センター、一般の就職情報サイト、研究室の先輩・OB・OG等から情報を得る学生が多いです。博士課程前期（修士）で就職する場合は、修士1年の夏頃から情報収集を始めることが一般的です。

●インターンシップは原則として学生本人が企業等へ申し込みますが、全員参加が必須というものではありません。興味のある業界・企業を知る機会として有益ですが、研究・授業とのバランスを考え、目的に合うものを選ぶことが大切です。

●学業と就活の両立は確かに負担がありますが、すべての企業・イベントに参加する必要はありません。理学部・理学研究科ではキャリア支援室による進路・就職相談、企業研究・自己分析、ES・面接の相談等を行っており、大学全体のキャリア支援も利用できます。早めに情報を集め、研究室の予定も踏まえて計画的に進めることをお勧めしています。

・理学部HP(卒業後の進路) <https://www.sci.tohoku.ac.jp/career/faq.html>



TOHOKU
UNIVERSITY

いただいたご質問への回答

オンライン交流会
「学生生活全般に関すること」

2026年9月13日（日）

東北大学理学部・理学研究科
保護者交流会2026

- ・卒業に必要な取得単位数と各学年での標準的な取得単位数を教えてください。GPAとは何でしょうか。

A

●卒業に必要な単位数は「124単位」です。あくまでも目安ですが、1年生終了時点で50～60単位、2年生終了時点で80～100単位、3年生終了時点で100～120単位が平均的です。GPAは相対的な成績の指標で、0.0がD、1.0がC、2.0がB、3.0がA、4.0がAAの水準を意味します。

詳しくは以下のページをご参照ください。

- ・東北大学HP「本学のGPA制度」

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0110/>

・ Q. 敷地や校舎での防災・防犯体制について教えてください。

A

理学研究科では以下のような対応をしております。

● 防災対策：

- ・ 火災や地震、事故などを想定した全教職員・学生を対象とした避難訓練を毎年実施している。
- ・ 火災や事故などが発生した場合の連絡通報手順を研究科内で整備しており、各研究室の見えやすいところに貼付するよう通知している。
- ・ 「防災行動の手引き」を学生を含めた研究科全員に1部ずつ配付し、日ごろから手元に置いておくよう指示している。
- ・ 災害時の帰宅困難者用に備蓄食料、水、毛布、トイレ等を備えている。
- ・ 学生、教職員全員が受講する安全教育で、過去の地震からの教訓等を紹介している。
- ・ 東北大学には安否確認システムがあり、災害時の学生の安否情報を収集する仕組みを備えている。
- ・ 救命講習会を年3回開催。心肺蘇生法やAEDの使い方を学ぶ機会を提供している。

- ・ クマやイノシシ対策として、キャンパスの周りに害獣用の電気柵を張り巡らせているほか、目撃情報（ふんを含む）があった場合は、周辺学部と情報共有し、都度一斉メールで注意喚起している。

・ Q. 敷地や校舎での防災・防犯体制について教えてください。

A

● 防犯対策：

- ・ 夜間（18時～翌6時）及び土日祝日は、建物の出入口を施錠しており、電子錠のパスワードを知る者のみ入館出来る仕様としている。
- ・ なお、キーロックも建物ごとに違う番号を設定し、1年ごとに変更している。
- ・ 警備員が24時間、365日体制で常駐しており、緊急時の対応連絡体制を整備している。



【2025年度防災訓練の様子】

2026 年 9 月 13 日(日) 東北大学理学部・理学研究科保護者交流会 2026

いただいたご質問への回答（当日）

進学・就職・経済支援に関すること

下記サイトに詳細な説明がございますので、お寄せいただいた質問とあわせてご確認いただけますと幸いです。

- [理学部・理学研究科のための就活ガイド](#)
- 理学研究科・理学部 HP：[卒業後の進路](#)、[大学院入試方法](#)、[博士向け奨学金制度](#)、[研究生](#)
- [東北大学キャリア・社会連携支援センター（全学）](#)
- [東北大学高等大学院機構：東北大学高等大学院 LEAP プログラム](#)
- 数学科・数学専攻：[大学院入試案内](#)、[修士課程修了者就職状況](#)
- 物理学科・物理学専攻：[大学院受験生の方へ](#)
- 宇宙地球物理学科・天文学専攻：[大学院入試情報](#)、[教育・進路](#)
- 宇宙地球物理学科・地球物理学専攻：[大学院入試](#)、[入学・進路](#)
- 化学科・化学専攻：[大学院入試](#)、[卒業後の進路](#)、[主な就職先](#)
- 地球惑星物質科学科・地学専攻：[大学院入試](#)
- 生物学科：[卒業生の進路](#)

Q.D3（博士課程後期3年）以降ポスドクに進むということは、大学教員になるという目標があつてのことなののでしょうか。それとも研究者として大学で研究を続けるということなのでしょうか。ポスドクの任期が切れたあとは、研究を続けたい場合自分で次の受け入れ先を探すということでしょうか。

A. ポスドクは、博士号取得後に大学や研究機関等で研究に従事する、通常は任期付きの研究職です。大学教員や研究機関の研究者を目指す方にとっては、研究者として自立し、専門性や研究実績を高めていく重要なキャリアステップの一つです。

一方で、その後の進路はアカデミアに限られず、企業の研究開発職等へ進む方もいます。また、博士課程在学中から就職活動を行い、ポスドクを経ずに企業へ就職する方もいます。

ポスドクの任期終了後も研究を続ける場合は、次の大学・研究機関等のポストを自ら探し、公募等に応募することになります。したがって、ポスドクは研究者として力を伸ばしながら、その後の大学・研究機関・企業などのキャリアにつなげていく期間と考えることができます。大学・研究機関等の公募情報はキャリア支援ポータルサイト JREC-IN 等で公開されています。

Q.理系の大学生は、研究室に配属されると他の活動が一切できなくなります。毎日研究に追われて、研究者になれなかったら社会人としてやっていけるのでしょうか？費やした研究の日々が無駄に感じることはないのでしょうか？

A. 研究室や分野によって活動の仕方は異なりますが、特に実験系では研究に多くの時間を費やす時期があります。ただし、研究に費やした時間が、研究者にならなかったから無駄になるということはありません。

研究では、専門知識だけでなく、未知の課題に対して仮説を立て、データを集め、分析し、うまくいかなければ方法を見直すという経験を重ねます。そこで身につく論理的思考力、課題解決力、分析力、粘り強く試行錯誤する力は、研究開発職や技術職だけでなく、幅広い仕事で活かすことができます。

重要なのは、研究内容そのものだけでなく、研究を通して何を考え、何を工夫し、どのような力を身につけたのかを社会に伝えられることです。キャリア支援室でも、その言語化を含めて支援しています。

Q.企業からの求人は、どのような状況でしょうか？ D3（博士課程後期3年）で、これからエントリー可能でしょうか？

A.D3の現在からでも応募可能な企業や研究機関はありますので、これから就職活動を始めることは可能です。

博士の場合は、修士の新卒採用とは異なり、博士向け採用、研究開発職の個別採用、公的研究機関の公募など、複数のルートがあります。一方で、採用状況や応募時期は企業・職種によって異なるため、就職を希望する場合は早めに具体的な活動を始めることが重要です。

これまでの研究で培った専門性や課題解決力を整理し、それを必要とする企業・職種を具体的に探していくことが大切です。進路が未定の場合は、キャリア支援室等へ早めにご相談ください。

Q.就職先として、仙台を選ぶ人が多いのでしょうか？関東や、他の地域から進学した人は地元で就職するのは難しかったりしますか？

A.仙台を就職先として選ぶ学生が多いというわけではありません。東北大学には全国各地から学生が進学しており、卒業・修了後も、仙台・東北地方に限らず、首都圏をはじめ全国各地の企業、大学、研究機関等へ進んでいます。

そのため、関東など他地域から東北大学へ進学したことによって、地元での就職が特に難しくなるということは基本的にはありません。

ただし、勤務地を特定の地域に限定すると、その分、応募できる企業・職種は少なくなります。地元就職を希望する場合は、勤務地や配属、転勤の有無も含めて早めに情報収集することが大切です。

学生生活全般に関すること

Q. 《当日ご自身の体験をお話しした数学専攻・博士後期課程の学生への質問》

物理でも工学でもなく数学を選んだ理由を教えてください。

A. 【学生の声】 高校生の時には理学部数学科か工学部で進路を悩みましたが、最終的にはきょうだいが数学科に進学していたため、自分も数学科への進学を決めました。

【相談員の立場から】 高校生の進路選択において、学問への適性を踏まえた判断はとても難しいように思います。それは、大学の学問について詳しい人間が、高校生の身の回りにとても少ないためです。また、今回の学生さんのように、身近な人（家族や親戚、場合によっては近所の人）の影響を受けて進路選択する大学生は多くいます。相談員としては、「なぜその学科を選んだか」ではなく「その学科に入ったあなたは何を成そうとしているか」を考えてもらうようにしています。

Q. 研究室配属後、終電に間に合わずタクシーで帰宅している我が子の健康面、精神面が心配です。

A. 最初に確認しておきたいことは、理学部・理学研究科の全学生が終電に間に合わない程の研究室生活を送っているわけではないこと、また、一時的にそのような期間があったとしても、一年中そのような多忙な日々を送る必要はないことです。もし、一年中、かつ、不本意に、長時間の研究活動を強いられている場合は、キャンパスライフ支援室を始めとする学内の相談窓口にご相談ください。

その前提の上ではありますが、長時間の研究活動が必要になる場面はどうしてもあり得ます。研究内容や年間スケジュールによって、根を詰めて取り組むことは多くの学生が経験します。大事なことは本人が自ら生活をコントロールできている感覚です。自らの意志で研究に取り組んでいる限りは、その背中を応援していただけますと幸いです。ただし、心身に長期間の負担をかけ続ければ、当然健康面での悪影響が懸念されます。長い研究室生活を送る中で、根を詰めて取り組む時期と、肩の力を抜いてリラックスする時期のバランス感覚を保つ力はとても重要です。社会に出てからも大きな武器になります。ご家族からバランスを崩し始めたように見える際には、ぜひ学内の相談窓口へ一度足を運び、持続的に研究に取り組むための工夫について話し合うことをお勧めください。

その他

Q. 大地震で帰宅困難あるいは学生一人暮らしアパートが住めなくなり避難してくること想定されますが大学には何日分の備蓄がありますか？

A. 理学部は仙台市指定避難所ではないため、日頃から大学周辺や自宅周辺の避難所を事前に確認しておくよう、「防災行動の手引き」に記しています。

（仙台市の指定避難所一覧：

<https://www.city.sendai.jp/anzensuishin/kurashi/anzen/saigaitaisaku/hinanjo/doko/shitei.html>)

なお、理学部は一時的な避難場所として、常時 2,000 人分の水、フリーズドライビスケットを備蓄しています。